

広袴便り

吉川俊雄 書
(町内会長)

'04冬号
新春

広袴町内会
会報第2号

東京都町田市広袴町内会

発行責任者

会長 吉川俊雄

〒195-0056
東京都町田市広袴2-7-19

〈電話・FAX〉

042-735-5464

広報部長 西川文二

〒195-0056
東京都町田市広袴3-15-9

編集長 中村一行

〒195-0052
東京都町田市広袴町522

〈電話・FAX〉

042-734-0451 (西川)
042-734-9706 (中村)

二〇〇四年の新年を迎えて 町田市長 寺田和雄



広袴町内会
のみなさま新年明けましておめでとうございませう。

日頃から、広袴公園やせらぎ緑道の周辺環境の整備、「広袴便り」の発刊など、意義のある活発なコミュニケーション活動を実践されている貴町内会のみなさまに敬意を表する次第です。

永い間の不況が続き、そのために企業や家庭、それに自治体もまた厳しい局面に立たされています。高齢・少子化とともにリストラなどで心ならずも職場を離れた方、生活保護を求める人たちらもますます増大しております。国も自治体も、税収の減少で四苦八苦、新しい施策の展開どころか、従来からの施策やサービスをどうやったら守れるかが問われています。

加えて、イラクの情勢など、国際的な紛争の多発は人々の心を暗くさせています。また、国内の犯罪も増加の一途を辿り、「安心・安全」が大きな政治テーマになってき

ました。

新年早々、暗く、つらい話で恐縮するばかりですが、これが正直な昨今の状況です。それでも、わが町田市においては、昨年、市制四十五周年を迎え、人口もいよいよ四十万人台を突破しました。さまざまな困難はありますが、住んでよかったと云える町田市」を目指して頑張つてまいります。

まちづくり面では、鶴川、南町田、相原など市外縁部の整備を中心に進めてまいります。また、北部丘陵の自然を生かしたまちづくり基本構想の検討を進めてまいります。

子育て支援については、保育園、学童保育クラブの増設による待機児解消をはかるとともに、待望の鶴川子供センターの建設、また「子供マスタープラン」の策定を進め、子供たちが元気ですくすくと成長できる環境をつくつてまいります。高齢者対策としては、いよいよ木曾森野高齢者福祉施設の建設が始まり、平成十七年度開設を目指します。さらに、高齢者や障がい者計画を統合した一体的な地域福祉計画の策定も進めます。

教育面では、旧忠生四小の校舎を利用した町田市教育界待望の「教育センター」の開設、小山ヶ丘小学校の建設、それに中学

校給食の実施に向けた準備着手、文学館建設の準備などを進めてまいります。

限られた財源を有効に生かしながら、なおいつそう行政改革を進め、みなさまの期待にこたえてまいります。今年一年、今までと同様、ご理解とご協力をお願いし、新年のあいさつといたします。

新年を迎えて 町内会長 吉川俊雄

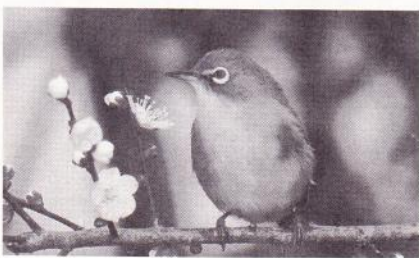
明けましておめでとうございます。新春を迎え、会員の皆様方に心からご祝詞を申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。新年も変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、多くの新居住宅が着々と建築される中、お蔭様で本年度も370世帯を越える会員の皆様をお迎えすることができましたが、年度末までには更に新加入が増えるの見込まれております。今振り返って見ますと、当地域が町田市の合併以降、広袴町内会として初代会長吉川胤正氏を擁して昭和33年に発足して以来45年の歳月を経ておりますが、当時の会員数から比較すると実に10倍の会員数になっております。これは歴代会長並びに会員一人一人の努力と歴史の積み

重ねの賜物でありますが、まずもってこの大きな発展と飛躍を皆様方と共に慶び合いたいと思います。

一方、全国的な凶悪犯罪や多様化した各種犯罪が後を絶たない今日、特に交通事故を初め、街頭犯罪、侵入犯罪が増えています。町田市の事件発生状況は原町田繁華街が最も多く、女性に対するひったくりの被害が全般的に多い他、侵入盗も鶴川地区全体で140数件以上の被害が発生しています。広域に亘る犯罪は若年化し、高齢者、女性、子供の被害が増え、地域の不安が増大しています。こうした状況の中、警察との連携はもとよりですが、防犯推進運動「自分達の街は自分達で守ろう」を合言葉に各ご家庭においても防犯意識の高揚を図り、「安全、安心の明るい街作り」を目指し、皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが会員皆様のご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



「自分達の町は自分達で守る」

高橋町田市総務部防災課課長

を囲んで



高橋課長

編集長 去る

7月27日に行われ
ました広袴町
自主防災訓練で
は170余名の参加

があり、従来にない盛り上がりを見せました。その折、課長に皆の前で挨拶いただきましたが、自分達の町は自分達で守るという気持ちを持つということ、近隣との付き合いを大事にするという2点を強調されました。本日はその続きということでお話を伺いたいと思います。まず自主防災の組織ですが、現状では町内会の役員がその任期の間だけ担当し、その後はまた新規役員に交代してしまうので、組織として一応形はあるものの必ずしも魂が入ったものとなっていないかもしれません。それを変えていくためにはどうしたらいいか、その辺りからお話いただけますでしょうか。

高橋課長 自主防災組織は町内会組織とほとんど同じであるため、自主防災隊の役員は任期一年というところが多いようです。市の方では技術を習得して皆に教えるのに任期一年では不十分で、命令系統を強化する意味では各班の隊長は従来からの経験者であるとか消防団経験者とかを据えて最低2年、出来る限り長くやってほしいとお願ひしてきています。しかしそれも難しいこととは事実で、それなら逆に自主防のいろんな講習会を少しでも受けて大勢の方が知識を得ればそれでもいいのかな、という気も

しています。しかしその場合は役員になるサイクルが短くないとなかなかレベルが一定以上に向上しない、その辺の難しさがあります。あと、自主防災隊が市とか消防団



自主防災訓練で挨拶される高橋課長

に関する関係なく独自で災害に対する訓練をするというのが今後の理想でしょうね。実際いざ災害という時には市(職員3000人)と消防署(職員300人)消防団(600人)が無傷で動員できたとしても手が回りかねますし、実際はその人たちも被災者になってしまいうわけですからそんなに動員できません。又、多く助ける為にはその戦力を集中投入した方が効果があるわけですから、どうしてもカバールしきれない地域がでてしまいます。従って、被害を最小限に食い止めるた

めには市や消防の出動を待つのではない、自分の身は自分で守り、自分達の地域は自分達で守るという意識が日頃から非常に必要となります。

従って各種の訓練も日頃から自主的に積み重ね、災害時には円滑な活動ができるようにしておいていただきたいものです。

編集長 給水車の支援体制とか救援物資の配送ルート確保体制についてお聞かせください。

高橋課長 町田市では災害時の「応援協定」を市内スーパーや百貨店と結び、更に近隣及び遠方の市町村とも「相互応援協定」を結んで物資供給は確保できるようになっ

ています。あとはそれをどう配送するかの問題です。水については東京都が一元管理しているわけですが、都の総合防災部の考

え方は2キロに一つ給水拠点を設け、被災者は自らそこまで水を取りに行くという考えです。それに従って市でも各浄水所等に給水拠点(広袴の近くでは鶴川中央公園応急給水施設が100トンの給水槽を持つ)を設けた他、小中学校等に受水槽などの給水所も設け、更に非常用にプールの水をろ過して飲む浄水器も用意しています。が、あくまで取りにきていただくのが原則で、市の方から配水して回るとい考えは持っていない。市でも給水車は持っています。それは原則として医療用です。従って当面の三日分の水については各自で備蓄して欲しいと思っています。また、地元の井戸をお持ちの方に防災井戸の指定をして地域住民に分けていただくよう協力を呼びかけています。

編集長 井戸は地震の時は濁ってしまうこともありますが、各家庭で備蓄していても家が倒壊して取りに戻れないというケースもあり、現実的には各自が給水所に取りに行くことが多いと思います。また、私自身、阪神大震災のボランティア経験から救援物資に洗濯機があると良いと思いましたが倒壊して洗濯もできない状況の中、水道が復旧した時、皆、避難所でいち早く洗濯をしたがったのです。更に、トイレが大きな問題になると思いますが簡易トイレは充分にあるのでしょうか。

高橋課長 あります。ポータブルトイレが用意されています。ただ断水状況の中では直ぐに下水に流せるわけではないので、ポータブルトイレの数が揃ったとしてもそ

の清潔な管理運営が難しいところ。 **編集長** 話が変わりますが、防災倉庫購入に際しましては迅速な補助金の交付有り難うございました。

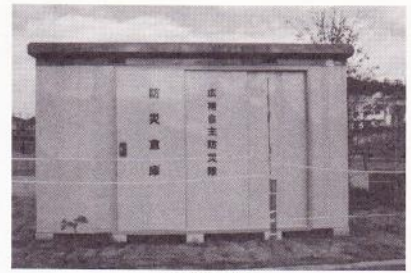
高橋課長 申請のタイミングがよかったですね、予算もありましたし。後は中に何をに入れるかですね。自主防災組織の中では食料を中心と考えるところと器具を揃えることを中心に考えるところと二つの考え方があります。古い住民の方が多い処は食料を、新しい住民の方が多い処は器具を中心に考える傾向があるようです。新しい住民の方が多いところでは自然災害だけでなく空き巣等の人為災害も考慮し、近隣との声かけやつながりを心がけて頂くことが必要だと思います。そういう意味では町内会等の役員を経験していただくのが一番ですね。また、避難所、消火栓、街頭消火器、防火水槽の場所や危険箇所を載せた地域の防災マップを作っ



対談を終えて

て配布して頂くことも良い方法だと思えます。災害時に広袴公園だけでなく駐車場、お寺などの空閑地を利用することも地元の消防団や消防後援会と相談し考えておいて欲しいことです。

(注) 防災倉庫は8月9日に西川防災隊長から購入の建議がなされ、8月11日に市総務部防災課と話し合いを持った結果、補助金の予算の問題もあり早めの申請が好ましい



防災倉庫

という見解を得たので、直ちに同日付けで申請書を出すこととしました。総工費見積金額は216,930円でした。その結果、8月27日に補助金交付の決定、

9月4日に108,465円の金額確定の後、9月16日に同額が交付されました。従って町内会の実質負担額は半分の108,465円で済みました。また倉庫そのものは8月22日に現場立会いがなされ、9月1日に設置されました。
倉庫の鍵は8本作成し、町内会三役で3本、防災隊で3本の他、倉庫に地理的に至近距離にお住まいの吉川市郎さんと吉川忠延さんに各1本ずつ保管していただくことになりました。

(中村一行、滝口博子)

第一回 「交通安全と防犯について」

創刊号で予告された講習会が10月13日午後1時より広袴町内会館に於いて行われました。広楽会、子供会、そして新しく町内会に入られた2名を含め43名の方々が雨の中にも拘らず出席されました。

講師は、町田警察署教育係長 山岸亮一氏と吉田美恵子係員。山岸氏からは、町田市内の交通事故の現状報告、自転車のマナ

1について、自転車は車両だが歩道を歩行者に優しく走ってほしい、点滅信号では、横断しないなどの交通ルールを守り大人が子供の手本となるようになど。吉田係員からは、自転車に取り付けるリフレクター(反射材)が配られ、25分のドラマ形式のビデオ「自転車利用者の事故防止のために」が上映されました。事故原因は、ルールの無視とマナーの欠如です。「お互いに優しさと思いやりの心を持って行動すること」の大切さを再認識する良い機会となりました。評判が良く是非第二回目をとの声があり、3月に次回講習会を実施予定です。是非多くの方々のご参加を期待します

(小暮真弓)



吉田係員

山岸教育係長

自主防映画と座談会のお知らせ

日時 平成16年1月18日(日)

午後1時30分

場所 広袴町内会館

ビデオ「猛煙からの脱出」(20分)

指導 鶴川出張所長 佐藤利行氏

町内会費・防災費納入ありがとうございました。

町内会費(年4,000円)及び防災費(年1,000円)の納入につきましては、多くの皆様から格別のご協力を頂き有り難うございます。平成15年分として納入頂きました皆様への領収案内を兼ねてご報告申し上げます(平成15年11月30日現在)。

今年度の予算は18口の伸びを見込み、町内会費で340口(1,360,000円)、防災費で325口(325,000円)でしたが、新規会員の増加はそれ以上となり、町内会費で355口(1,413,900円)、防災費で340口(338,800円)の実績となっております。組・班毎の実績は次のようになります。

組 班	町内会会員数	防災会員数	町内会費	防災費	計	組 班	町内会会員数	防災会員数	町内会費	防災費	計
1組	31	30	124,000	30,000	154,000	6組	21	19	83,000	18,500	101,500
2組A班	11	8	44,000	8,000	52,000	7組	30	30	120,000	30,000	150,000
2組B班	16	15	64,000	15,000	79,000	8組	12	12	48,000	12,000	60,000
2組C班	14	14	56,000	14,000	70,000	9組A班	22	22	88,000	22,000	110,000
2組D班	13	13	52,000	13,000	65,000	9組B班	22	22	88,000	22,000	110,000
3組A班	13	12	52,000	12,000	64,000	9組C班	13	13	50,400	12,800	63,200
3組B班	10	7	40,000	7,000	47,000	9組D班	15	15	60,000	15,000	75,000
3組C班	17	17	68,000	17,000	85,000	10組A班	9	9	34,400	8,800	43,200
4組A班	12	11	48,000	11,000	59,000	10組B班	14	14	54,100	13,700	67,800
4組B班	16	16	64,000	16,000	80,000	10組C班	8	8	32,000	8,000	40,000
5組A班	14	11	56,000	11,000	67,000	10組D班	10	10	40,000	10,000	50,000
5組B班	12	12	48,000	12,000	60,000	合 計	355	340	1,413,900	338,800	1,752,700

(中村一行)

「自然との共生」を目指して

新倉町田市都市緑政部長
佐伯公園緑地課公園管理担当課長
を囲んで



新倉緑政部長

佐伯課長

つています。小山田、小野路、真光寺にかけての町田北部丘陵約1000haがその市街化調整区域です。多摩丘陵は八王子市・多摩市から三浦半島までつながっていたのですが、多摩ニュータウンの3000haの開発で殆ど削ってしまい、残っている北部丘陵の緑は大変貴重なものとなりました。

鶴川第二地区の区画整理が始まった時も川崎側と町田側の両方で尾根を残そうと努力しました。しかし小山田、小野路、真光寺地区には昔から住んでいる地主さんがおられ、その方たちのことを考えると部分開発もやむを得ないと思っています。というのは、農地は相続税の猶予措置があります。山林にはそれがなく、相続税支払いの為やむを得ず山林を売却することとなり、その結果、山林が残らないという問題があるからなのです。これからの大きな課題だと思っています。

税制の問題ではイギリスにはナショナルトラスト法というのがあり、その法の下でナショナルトラスト団体に資産を遺贈、寄贈すると相続税が免除されます。能ヶ谷地区の森が千都の杜の開発がらみで崩された時も反対運動がありました。地主の立場としては税負担がある以上開発せざるを得ないということでした。

緑政部として広袴地域に対する取組を過去、現在、未来の視点からお話しいただければと思います。

緑政部長 広袴全体が多摩丘陵の一部に入っていて、大変緑が多く可能な限り緑を活かして町を造りたいと思ってやってきました。町田市の面積は全体で7200haクタール(ha)、その内、都市計画に5200haが市街化区域、残りが市街化調整区域とな

緑政部長 そういう意味では小山田地区の一部が都市計画上の緑地になっておりまして、そういう形で抑えをすればある程度の緑は残せます。ただ、緑地指定や市民の森として公益化するとしても財政的な点で限度があり難しいところです。また緑地保全基金という制度もありまして、緑地の保存に対してご篤志ある方のご寄付を受け付けてはいます。が、現実にはあまり機能して

いません。また市民の森、緑化の森は市が買取るといふ形をとっているのですが、財源的に厳しいものがあります。それで、市が借地し、緑地として保存する、相続の発生時には国に物納して頂いて、国の財産になってから改めて市が買って残すということをやっています。しかし市が買ったとしてもその増えた緑地の管理が大変です。地権者の方々に管理をお願いすることもありますが、今回、西川さんを中心とした「せせらぎ緑道」の自治管理はまさにお願いしたい理想の形なのです。できるだけ地域の方で自治組織を作っていたら管理していただくことをお願いします。そうすると自分達の緑地ということでも愛着もわき、荒らさないという意識も生まれるのではないのでしょうか。

「せせらぎ緑道」では非常に藻が発生します。水量を増やしてコンコンと流れるようにすれば藻が無くなるかと思うのですが、その辺りについてお話しください。

佐伯課長 住宅公団が鶴川団地を開発後、この地域を地主さんと市との間で区画整理するに当たり、何か特徴のあることをしようというのを提案しました。その結果、真光寺川の最上流に当たる川の復元をしようということになり「鶴川第二地区水空間の設計」という調査が昭和59年12月になされた、それが母体となってこの「せせらぎ緑道」の構想が始まったとされています。最初は井戸水を使うことや真光寺川の水を使うことを考えていたのですが、水質とコストの問題で取り止めました。今はその地区を造成した時の暗渠排水を集めていまして、そこに相当の水量があり(日量30トン程度)水質にも問題がないということを確認して

使うことになりました。湧水は水量を増やすことはできません。「せせらぎ」で発生している藻はアオミドロで流れの緩やかな処で見られ低水量を好みます。夏より冬の方が多い傾向にあるのですが、町田の中では湧水を使った池でよく見られます。直接水質の因果関係はなく、これが発生するから水質が悪いというわけではなく、水が汚い処ではむしろ発生しません。藻が発生する水質を調べてみると大体が窒素が多いですね。日が当たり、窒素系養分があり、よどみのある低水量のところに発生するというわけです。対策としては清掃でこまめに除去するか水量を多くして流すかだと思います。真光寺川の上流部分で下水道完備がなされ、水質が将来良くなればその水を導水して水量を増やすことも可能です。それ程大がかりな工事をしなくても導水することが出来ます。あと当面は日陰を作った藻が発生しにくくするという方法もあります。

「緑の保全」の尺度とか基準はあるのでしょうか。また動植物の生態がどれだけ保全されているかということなどの統計資料とか基準はあるのでしょうか。

緑政部長 「町田市緑の基本計画」というのがあります。最終的にはゴルフ場、神社仏閣、学校も含めて緑比率(市域に対する割合)が26%(1998年度)から34%(2010年度)を目標にしています。ちなみに現在は27%程ですが、今後も可能な限りの努力をして参りたいと思います。町田にある公園の池の水面面積としては広袴調整池が9000平方メートル(㎡)で一番大きく、次いで薬師池の7000㎡、真光寺公園の池は2500㎡です。緑道ゾーン全体は800㎡、その内せせらぎゾーンが35

0㎡で緑道は広いところで幅10mもありま
す。

動植物の生態については町田が関東山地
から多摩丘陵、三浦半島に至る広域的な生
きものの供給基地であり移動空間となる
「緑の回廊」であるという認識を持っており、
生態系を活かした街作りを進める為の道し
るべとしてエコプランを作っています。た
だ個々の動植物の分布とか生物生息確認作
業は未だ満足にはできておらず、今後の課
題です。市民、行政がエコプランの趣旨を
広く共有し、各種街作りの計画に配慮、活
用されることが望まれます。

(中村一行、滝口博子)

せせらぎ緑道



せせらぎ緑道

皆さんせせらぎ緑道のお散歩楽しんでい
らっしゃいますか。まだ出来たばかりはや
ほやの緑道に関して、今回は真光寺川を清
流にする会会員で広袴公園・鶴川台せせら
ぎ緑道を守る会会長の山本隆治氏にお話を

伺いました。

緑道は横浜家ラー
メンの道路を渡った
地点から調整池まで
890メートルあり、水
の流れる所は公園事
務所の向かいの地点
から、450メートルで
す。幅は水の流れな
い部分は5メートル、
せせらぎのある所は
10メートルになって
います。せせらぎの
水は真光寺公園の池
から暗渠で流れてき
た水を汲み上げて流しています。多い時は
毎分50〜60リットルの水になります。通
常はあまり流れておりません。中には淡水
にすむ巻貝、ブラックバスなどの稚魚、ア
メンボが見られます。藻が増えてしまうの
ですが、これからせせらぎをより一層美
しい流れにするための課題になりそうです。
緑道の途中にはあずまやもあります。緑道
沿いには山桜、楠木、クスギ、コナラ、桂、
ケヤキ、ハナミズキ、モミジ、カエデなど
が植えられています。せせらぎが繋がる調
整池では、カイツブリ、バン、白鷺の一種
であるコサギ、コガモ、キジなど沢山の野
鳥たちにお目にかかれます。さらに真光寺
川には、ニシキゴイ、ヘラブナ、なます、
ドジョウなど沢山の魚たちが生息して
いるのです。これら、調整池を中心とした
広袴公園、真光寺川、に加えて誕生したせ
せらぎ緑道を皆で守り育てて行きたいもの
です。そして大人から子供までが寛ぎ、楽



しめる癒しのスポットにしたいものです。
山本会長がおっしゃいました。「自然を守り、
育てる事で、私達住人とそこに住む動物達
と共生できるような環境を作りたいもので
すね。」

公園ではきじのひなが5羽、カイツブリ
のひなが5羽孵ったそうです。野鳥達のそ
ういった姿を暖かく見守り、水鳥たちの子
育てを身近に見たり、観察したりできるこ
の環境をいつまでも維持してゆきたいもの
です。そして春・夏・秋・冬のそれぞれの
味わいを楽しみましょう。

せせらぎ緑道を散歩の折に、ゴミなどみ
かけたら、拾って処分してくださいね。
一人一人の気持ちで美しい緑道を作り出す
「鍵」なのではないでしょうか。

(佐々木幸子)



ゴイサギ



セグロセキレイ



郷土史の発掘と継承 — 屋号の考証

(第二回) 「みせ」



吉川正雄家遠望

「第一回で「なぬしさま」という屋号をお持ちの大家家をご紹介したのはこうした名主としての歴史的存在感に敬意を表したものであったが、その時広袴にはもう一軒「経済名主」というのがあるというご指摘があった。それが「みせ」という屋号をお持ちで、今回ご紹介する吉川正雄様宅である。

正雄様のお屋敷は今の吉川動物病院の裏手で現在、正雄様ご所有の賃貸マンションが建っているところであった。今もそこに墓所があるのはその故である。その墓所はマンション建設に伴う整地作業の為高い小山の上にあったものが現在の場所に移設されている。その時墓石をお寺の過去帳と照らし合わせ調査を行った妙全院の記録によると、1436年までは遡ることができ、約

42人程の埋葬が確認されたそうである。その墓所を訪れると吉川家元祖塔と刻んだ墓石を見ることができ、広袴の吉川家一門の中では総本家と云われている。

旧屋敷のあった場所は広袴を通る旧街道（鎌倉街道）沿いである。旧鎌倉街道は現在の能ヶ谷、矢崎橋から今のお住まいの前を通って左折し、広袴中央の交差点の辺りから右折して小野路方面へと続いており、店を構えるには恰好の場所であったものと思われる。商品はたばこ等何でも売っているよろづや（今でいうコンビニ）で大層繁盛して使用人も大勢いた。何時の頃から商いを始めておられたのかは判然としないが火事をきっかけに廃業している。火因は店が超繁忙の為数入りを許されなかつた奉公人が、火事になれば暇を貰えるだろうと考えた上での放火であったという説があるが、はっきりとしたことは判らない。この火事以来

来、先代は店を畳んだばかりでなく、一旦、谷戸（やと）という屋号で知られる大家家の土地を経て、現在の敷地に引越された。以来百数十年の年月が経つ。

経済名主といわれたのは、政治向きのことには携わず主に会計の任に当たった為にそう呼ばれたようであって、領主が異なる為に複数の名主が存在したケースとは違うようである。

取材中、正雄様の膝の上で可愛らしいお孫様が座って一緒に話を聞いてくれたのが印象的であった。600年も続く吉川家一門のご繁栄を切に願います。

(中村一行・大川節子)

(第三回) 「つけぎや」

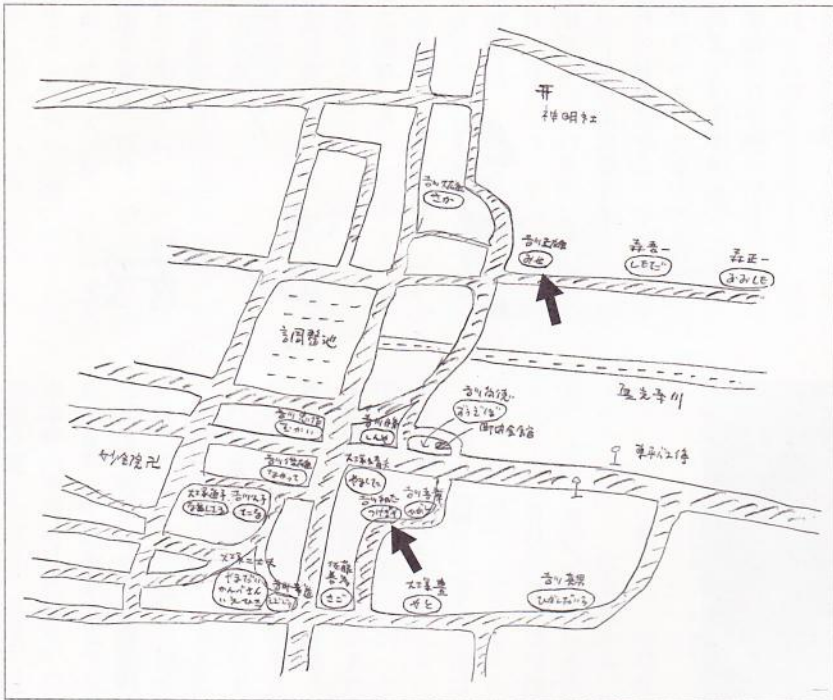
広袴には元々「つけぎや」という屋号をお持ちのお宅は2軒あった。一つは現在の広袴中央交差点西南の角に居を構えておられた故吉川義一様宅であり、もう一つは今回ご紹介する、前町内会長であられた吉川和志（まさゆき）様宅である。吉川義一様宅跡は現在、現町内会長である吉川俊雄様の所有となっており、義一様のご長男である光重様は鶴川5丁目の商店街で現在コンビニを経営しておられるが広袴には居住しておられない。

「つけぎ」とは戦前未だマッチが貴重品であった頃、各家庭で囲炉裏やかまどの残り火から火を移して火を起こす際に用いられた12-13センチの木切れのことをいい、杉、檜、さわら等の木をうすく延ばして切り揃え、先端に硫黄を塗ったものの総称である。

吉川和志様家の系譜によると、明治13年没の徳左エ門様が恐らく初代として創業さ

昭和33年刊行の「鶴川村誌」によると名主に関し、次のような記述が見られる。「縁側が余計にあるとか間数が多いとか一般農家とその構造が違うのが名主の家である。勿論余裕があったからではあるが、その制限が緩かったからである。名主は一村一名が普通であったが、幕府の政策として一村でも領主が違う場合がある。その場合には一村に名主が二人も三人もいたわけである。又その村に適当な家がなく村以外から入ってくる人名主もあったが、大体その村で家柄の正しい裕福な者か、開発当初に力のあった人がなり、多くは世襲であった。名主は給米を受けるか年貢を免除されるかの恩恵を受けたり、苗字帯刀を許されたりした。名主は百姓であるが、村民に対して持っていた力は幕府の意思を代行するので、今の自治体の長とは比較にならない程強か

た。第一回で「なぬしさま」という屋号をお持ちの大家家をご紹介したのはこうした名主としての歴史的存在感に敬意を表したものであったが、その時広袴にはもう一軒「経済名主」というのがあるというご指摘があった。それが「みせ」という屋号をお持ちで、今回ご紹介する吉川正雄様宅である。正雄様のお屋敷は今の吉川動物病院の裏手で現在、正雄様ご所有の賃貸マンションが建っているところであった。今もそこに墓所があるのはその故である。その墓所はマンション建設に伴う整地作業の為高い小山の上にあったものが現在の場所に移設されている。その時墓石をお寺の過去帳と照らし合わせ調査を行った妙全院の記録によると、1436年までは遡ることができ、約



た。第一回で「なぬしさま」という屋号をお持ちの大家家をご紹介したのはこうした名主としての歴史的存在感に敬意を表したものであったが、その時広袴にはもう一軒「経済名主」というのがあるというご指摘があった。それが「みせ」という屋号をお持ちで、今回ご紹介する吉川正雄様宅である。正雄様のお屋敷は今の吉川動物病院の裏手で現在、正雄様ご所有の賃貸マンションが建っているところであった。今もそこに墓所があるのはその故である。その墓所はマンション建設に伴う整地作業の為高い小山の上にあったものが現在の場所に移設されている。その時墓石をお寺の過去帳と照らし合わせ調査を行った妙全院の記録によると、1436年までは遡ることができ、約

れたと思われるがそれ以前のこととは不明とのこと。大正15年没の光太郎様が二代目として引継がれ、そのご長男の倉之助様が三代目となるはずであったのが、第一次大戦



吉川和志家正面玄関

により大正6年に戦死されるに及んで次男の次郎様が三代目を引き継がれた。しかしこの次郎様が昭和20年に亡くなられた時は第二次大戦終戦の年、戦後安価なマッチが普及するにつれ「つけぎ」に対する需要も激減し、四代目となる筈であった現66才の和志様は一度も「つけぎ」製作に携わったことはなかった。むしろ時代の動きを見てご自身は昭和29年から養鶏業を起業され、最近まで継続された。従って和志様のイメージは卵の生産者ではあっても「つけぎ」の生産者ではなく、現在の和志様を知る者にとつて「つけぎや」という屋号が奇異に聞こえるのは当然である。和志様にとつての「つけぎ」の接点は父君次郎様の弟で叔父であられた五郎様から聞いた、「ちっとも

売れない時は全部親戚に引き受けてもらった」という、「つけぎ」販売に伴う苦労話のみであるとのこと。

しかし和志様によると「つけぎ」はむしろ副産物であつて、主に作っていた物は経木(きょうぎ)と通常読むことが多いが広袴ではきょうぎと読むのが主流)であつたとのこと。経木とは杉、檜等の木材を紙のように薄く削った物で、昭和30年代前半頃まではこれで肉、野菜、菓子等を包んだ。これに昔は経文を写したから経木という名が付いたという。この経木製作の過程で派生した端材を有効利用したのが「つけぎ」であつて本来主力製品である経木に焦点を当てて屋号も「きょうぎや」となるべきであるのに、何故副産物である「つけぎや」となつてしまったのかは謎である。

冒頭にご紹介したもう一軒の「つけぎや」であつた吉川義一様、亡くなる少し前には和志様宅を訪れ、仏壇に手を合せ、「倉さんには世話になつた」と仰つたという。倉さんとは、前述の三代目倉之助様のこと。その後ほどなくして義一様は亡くなられ、「倉さんに世話になつた」という意味を詳しく聞く機会は失われた。2軒の「つけぎや」さん、どちらがそもそもその製作の手ほどきをしたのであろうか。

義一様のご長男である光重様(大正15年3月のお生まれで現77才)のお話によると、ご実家の方を「上のつけぎや」和志様の方を「下のつけぎや」と称して区別したという。また、和志様のご尊父であられる次郎様が「つけぎや」としての技術習得の為に師として教を請ひ、修行をしたのが光重様の祖父であり、「上のつけぎや」の創業者でもあつた音次郎様であつたとのこと。だ

が、この音次郎様は明治7年頃のお生まれで大正4年頃に42、43才で癌により亡くなられている。ということは年令だけから考えると「下のつけぎや」の創業者といわれる徳左エ門様が明治13年没と年長であることから、「下のつけぎや」の方が創業は古く、従つてそもそもその製作の手ほどきは「下のつけぎや」から「上のつけぎや」に対してなされたのではないかと推測されるがはっきりとは判らない。

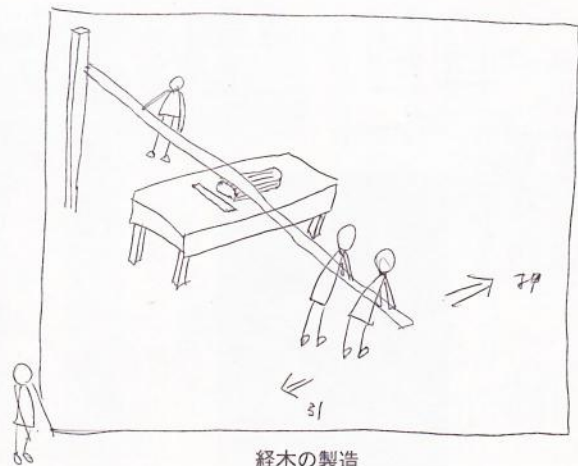
光重様は義一様から厳しく鍛えられ、小学校の時から学校に行けないぐらい家の仕事として手伝い15才の時から行商にも出て、町田を中心に仙川まで廻つた。それでも父義一がリヤカーで廻つたのに比べると自動車で廻ただけまだ恵まれていたという。

主要行商先としてはお寺が多かつた。當時お寺では年頭にお年玉代わりに「つけぎ」を配るといふ習慣があり、それを目当てに注文を取りに行き納品をしたという。

「つけぎ」の材料の木は地元産のさわらで緑山の辺りで伐採したものを昭和32年に自動車免許を取得するまでは、手押し車で1日掛かりで運んだ。できた「つけぎ」に、群青を混ぜ青く着色した硫黄を付着させて完成させた。できた「つけぎ」は3個づつ縛つて1連とし、6連を1セットとして販売された。従つて1セット購入すると18個の「つけぎ」が入手できたことになる。

一方、経木の方に使われたのは専ら赤松や黒松の松材であり、最終的には輸入米松もよく使われた。その木をかつぶしの削り器と同じ原理の巨大なカンナ(長さ2m、幅0.5m程、最近までは保存されていたが数年前に廃棄処分され実物を見ることはできない)を4、5人で押したり引いたりして

削つたという。それを暫く干した後12枚づ



経木の製造

つを束ね、それを8個集め96枚にしたものを1セット100と称して肉屋、魚屋、味噌屋等に卸したという。また経木の類似品として苗木の種蒔用の容器(現代では黒のビニール製が使われている)であるとか、「つけぎ」よりもやや肉厚で商品の値札として使われた「手板」もよく生産された。

「上のつけぎや」は光重様により、昭和42年までは「つけぎ」の生産が続けられた。昭和52年以降は「スーパー吉川」となり、以降はコンビニ「スリーエイト」を経営され現在に至つている。時代の流れとはいへ、一つの文化が失われた寂しさを感じざるを得ない。今後は広袴にこうした広袴の歴史を留める博物館でも創れないものだろうか。

(中村一行・大川節子)

諸団体から

広楽会

行事と活動報告

1. 演芸大会で「赤とんぼ」を熱唱

鶴川支部四団体の演芸大会が平成15年10月4日に鶴川老人センターにて実施され、全体では150名、広楽会は18名参加しました。歌、踊り、都都逸、三味線、合唱等で腕を競い、吉川芳枝さんはじめ10名の合唱団で、「赤とんぼ」、「海」を元気に歌い、好評でした。

2. 大蔵小学校にて輪投げ大会

平成15年10月19日、町田市みどりクラブ連合会鶴川支部の16組16チーム(120名)が輪投げ大会に参加しました。健康を守ることで、友好を深めることが目的の輪投げ大会でした。広楽会の選手は大塚利子、平島せい子、千葉智賀子、中島勝、竹野義明、阿部吉造の6氏で、7位と健闘しました。



3. 本年3回目の1泊旅行

平成15年11月6日と7日ロマンスカーで熱海旅行に20名参加しました。老いて益々元気に心と心で結び合う人間関係のネットワーク作りは広楽会にお任せください。

4. テーブルを囲んで歌った

「春の小川」「茶摘」に感動

町田市立鶴川第二小学校にて、第二回敬老コンサートがありました。校長中村雅子先生に招待され、広楽会は17名が嬉々として参加しました。お茶とお菓子が用意されている中、テーブルを囲み少女合唱団と歌いました。「春の小川」、「茶摘」、「夏の思い出」、「もみじ」、「たきび」などの歌に私達は昔を思い起こし感動致しました。鶴川第二小学校合唱団は良く練習をして、元気に大きな声で歌い呼びかけてくださいまして、最高の絵を見るようでした。「ありがとう」と、合唱団の皆さんに感謝です。平和幼稚園児の招待演奏も見事でした。平と台幼稚園児の招待演奏も見事でした。南翔太君は、少女少女に負けない大きな声で歌う私たちにびっくりしていたように感じました。かわいい少年です。中村雅子校長先生はにこにこして、「敬老会の皆さんと共に地域で子供達の成長のために、心と心で結び合い人間関係を作り、素晴らしい鶴川第二小学校にしたい、今日はそのための第一歩です。」と、お話しされました。「広楽会も子供達のために応援したい、何か出来ないか。」と、話しながら帰宅しました。次回第3回の敬老コンサートに期待しながら…。(会長代行 吉川市郎)

広楽会に寄せて

昨年の敬老祝いに町田市長から頂いたお祝いのメッセージの中に、我々シニア世代の生き方に関する次の様な一節がありました。それは、「一人一人が毎日を自分自身のためにどう生きるかという問い掛けを抱いて生活する事」という内容でした。

全くその通りだと思いを新たに致しました。その為には、各自が日頃より健康に留意するのは勿論、何か一つでもよいから趣味を持ち、常に前向きに考えて生きる事が必要ではないでしょうか。またそれらを側面からサポートする広楽会の諸活動(例会及び各種イベント)への積極的な参加を通して、会員相互の親睦を深め、且つ励ましあえる環境を構築し発展させた中から、少しでも地域社会に貢献できる原動力が生まれてくれば幸いと考えております。そして、更に広楽会が地元広袴の活性化と発展のための牽引力になれば理想的ではないでしょうか。広楽会の皆様、尚一層の御参加と御協力をお願い申し上げます。(竹野義明)

楽しいお話を沢山して下さい。

鶴川第二小学校より招待状

9月19日に鶴川第二小学校で敬老給食会がありました。広楽会から、吉川市郎、森吾一、魚津晋選男、大塚幸子、高橋四郎、中島勝、三留辰男、西川文二の8名が参加しました。

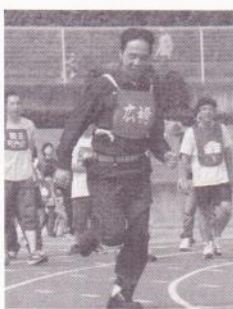
献立は最高に美味しい牛乳、栗おこわ、さつまいも汁、がんもどきの含め煮、野菜の塩、巨峰でした。

鶴川第二小学校の王子王女のみなさんが私達を心から迎えてくださり、「来て下さってありがとうございます。」の心が伝わる感動の出会いとひとときでした。森吾一さんと私は4年1組千葉ナツ子先生の38人のクラスに招待され、最後には感謝の言葉をいただきました。また、一人一人から折り紙の作品と老人を思いやるお手紙を頂き、私の宝物ともなり、まさに心と心が結び合わされる最高の時を過ごすことができました。お手紙の中

には、「私は今、入院中で欠席しています。敬老給食会には出られませんが、心の中では出席しているつもりです。身体にお気をつけて、お元気でいてください。今日はありがとうございました。」と、いう滝沢美織さんの一筆もはいつていました。また森健太君は、「ぼくは学校で初めて50メートル泳げました。とても嬉しかったです。これからもお元気で、僕のように嬉しいことに出会ってください。」と、希望と勇気に溢れたお手紙を下さいました。また四位よう子さんと吉川知沙さんは、「広袴公園には、花壇もあり、沢山の花が咲いています。」と、花の絵と詩も書いてくださいました。芹が谷公園からやって来たアヒル2羽がク1とフーと名前も付けられ、広袴公園でカモやシラサギ達と仲良くしているのを見るにつけ、世代を越えた人間交流の機会を頂けた今回の敬老給食会に感謝の気持ちです。(西川文二)

消防団

昨年も正規の団務だけでなく町内会行事の盆踊りの警備に、そして運動会の選手として活躍してくれました。



出初式が行われます。皆様見学にお越しく下さい。

日時 平成16年1月11日(日) 午前9時30分

場所 町田第一小学校

団員募集中

(中村一行)

広袴子供会

夏から秋にかけて、地域の様々な行事に参加させて頂きました。

8月2日の町内盆踊り大会、踊りには町内のたくさんの子供達も参加し、活気が感じられた盆踊りでした。

9月に入り、27・28日は神明社御祭礼、前日準備では宮総代の方々のご指導のもと、飾り付けのお花作りや燈籠作りを致しました。夜宮では燈籠に明りが灯り、子供達の描いた絵が照らされて何とも素敵でした。祭当日の朝、清しい空気の中で参拝させて頂き、午後はいよいよ子供神輿・山車の出番です。ご用意頂いたはつぴを身に付け町内を廻りました。担ぎ方や掛け声の出し方は未だ慣れていない様子でもありましたが、昨年に引き続きとてもよい経験、思い出が出来たことと思います。子供神輿を行うに当たり、ご支援を頂きました町内の皆様に感謝申し上げます。

10月5日の鶴川市民運動会は爽やかな秋晴れの中、町内が一つになり各競技に盛り上がった一日でした。来年は是非、走り好きな中学生の参加もお待ちしております！
こうして、古くから住まわれている方々や新しく地域に来られた方々が共に参加し、交流の場があることは素晴らしい事と思えます。年が



明けると「どんど焼き」がありますが、高らかな炎を囲い、また大勢の方が集うことでしょう。
(副会長 石田みどり)

広袴公園の花と緑を育てる会

「広袴公園」池イケ族の「花」だより

群青の空のもと、緑にふちどられた袴のようなならかな台地に一筋のせせらぎが流れて東京ドームを逆さにしたような池にそそいでいる。

小さな川辺で魚を追っている子供達、池のほとりでは水鳥を写生しているお嬢ちゃん、散歩している人、ワンちゃんの調教をしている人、走っている人などのどかにして健康的なコミュニティが広がっている。

11月に植えた花壇の可憐な花、その周りの芝生、きれいな池、すべて皆の協力で育まれている。散策している人が花壇を見て、「可愛いね、きれいだね」と、かける言葉に答えるかのように、木々も花たちも背を伸ばして咲き誇る。

緑道のせせらぎもゴミや雑草が取り除かれると、その美しさを増し、散策を楽しむ人々の気持ちを一層さわやかなものにしてくれる。これらはみな「広袴公園」池イケ族の励ましと協力で成り立っている。

さあ皆さんで「せせらぎ緑道をキレイにする集まり」と「花壇を育てる集まり」に参加して育てる楽しみを体験しましょう。



お知らせ

体験日：毎月第1土曜日の朝

8時30分～9時30分までの1時間

場所：広袴公園の広場

軽いタッチで参加してみてください。休日朝のひとときが一層さわやかに感じられるかもしれません。皆さんのお陰で花壇は育ちました。その和を更に広げたく頑張りますので、応援してください。期待しています。(会長 大嶋孝之)

(注)平成15年9月19日に行われた町田市と「町田市花と緑の会」共催による第62回秋の花壇コンクールに参加した「広袴公園の花と緑を育てる会」は惜しくも入賞は逃したものの、特別賞として新人賞を受賞しました。この秋の花壇コンクールには加盟31団体の内37団体が参加し、新人賞はその中で5団体に与えられました。3月4日に表彰式が行われる予定です。(中村一行)

行事報告と予定

納涼盆踊り大会

平成15年8月2日、恒例の盆踊りが行われました。例年どおり、受付、書記、接待、司会進行、花張り、運転手、警備、太鼓、カラオケ、出店等役割を分担して行われ、推定来客数は5百名程でした。

収支報告としては20万円の赤字で組成された予算(収入60万円、支出80万円見込み)に対し15万円の黒字実績(収入94万円、支出79万円)となり、一般会計に繰り入れることができました。



収入94万円の内、88万円はご祝儀で残りはお出店収入でした。ご祝儀88万円の内訳は3万円が1人、1万円が32人、5千円が96人、3千円が16人、2千円が1人でした。(中村一行)

鶴川地区市民運動会

爽やかな秋晴れ。天気も味方につけた鶴川地区市民運動会です。

私たちは家族が地域の運動会に参加するのは初めてです。今年の春まで住んでいた練馬区には市民の運動会がないので、スケールや種目の多様さに驚きました。競技場も立派だし、参加者も多くて、しかも参加するだけで景品がもらえるのです。

初めは緊張していたのですが、競技が始まったら緊張感がとけ、地域の皆さんに混じって運動会を楽しみました。

私が生まれ育ったブルガリアには、学校の運動会はもちろん、地域の運動会なんて全くありません。日本のように、また町田市のようにこのような行事があったら住民の繋がりが、また世代の繋がりがよりよくなるのではないかと心の奥で密かに思いました。今回の運動会を通じて、楽しい時間が過ごせただけでなく、日本の古くからある遊びを知ることができました。



地域の皆さん、楽しい時間を過ごさせてただいて本当にありがとうございます。

(四位エレオノラ)

「どんど焼き」に参加しよう

「どんど焼き」は、予め地元の子供達が町内の各家々を廻って集めた松飾や注連縄などを、小正月（一月十四日、十五日）に広場で円錐形に積み上げて焼き、その「歳の神」に、一年の無病息災を祈願する素朴で郷土色豊かな民俗行事（神事）です。一方この「どんど焼き」の火で焼いた餅を食べると風邪を引かないという言い伝えも残っています。

冬の夜空に勢いよく舞い上がる無数の火の粉と豪快な炎は、まさに迫力と躍動感の極みであり、周囲の幻想的な雰囲気と相俟って郷愁をも感じさせる独特な光景は見る人の心を捕らえて離さない魅力に溢れています。

町内会の皆様、是非一度お隣、ご近所お誘いの上、この「どんど焼き」に参加してみても如何でしょうか。今年は左記の日程で行われますので、御案内申し上げます。

記

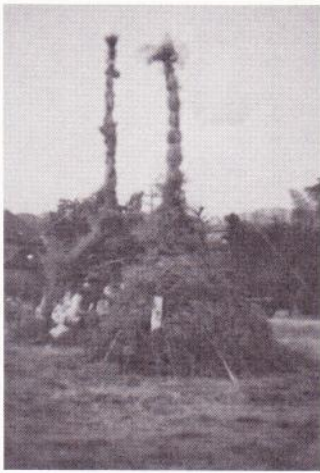
日時 平成16年1月11日（日）

午前9時 前準備

平成16年1月14日（水）

午後5時 点火

会場 真光寺川右岸たんぼ（竹野義明）



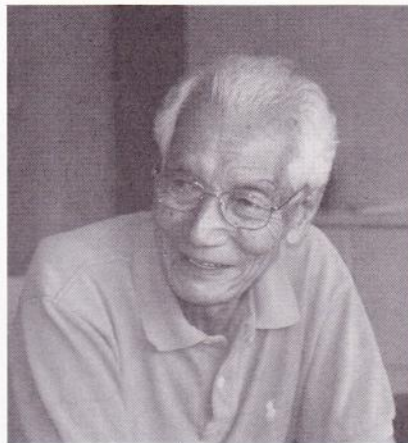
この町にこんな人（第二回）

日本最年長のパイロット

高橋 淳さん（80）

広袴3-8-29

インタビュアーに何うと長身でピンクのシャツがよくお似合いの高橋さんが、私達を迎えてくださいました。



自宅にて

1922年のお生まれです。小学校の時から大空を飛ぶ飛行機を眺めるのが大好きでした。15歳年上のお兄様が、当時勤務されていた新聞社の飛行機のフライトに招待してくださいました。パイロットになりたいという思いは強くなっていきました。15歳でグライダーを乗り始めました。「海軍の予科練に入って操縦を覚えて飛行機に乗ろう。そしてやがては民間に出て大空を飛ぼう。」と、考えていましたが、戦争が始まってしまいました。戦争では船を沈める事が任務ともいえる大型の一式陸上攻撃機の機

長でした。消耗率も激しい爆撃機で、マレ、ニューギニア等の南方や沖縄などで戦線攻撃を経験なさいました。生き残って帰ることが奇跡とも言える激しい戦争の中、最後の沖縄戦で30機の中、高橋さんの1機のみが還ってきました。「この攻撃はやばいとか、出撃前に遺書を書こう、そんな事を考えちゃいけないんだ」という強い精神力の持ち主でした。まだ20歳を過ぎたばかりの頃です。約2千時間にも及ぶ戦中の飛行の中でその技術は磨かれていきました。

23歳で終戦をむかえ、日本人は昭和27年まで空を飛ぶ事を禁止されてしまいました。その間、会社勤めなど他の職種を経験しましたが、飛行機への思いは募るばかりでした。飛行が解除されると、予科練時代の生きた方々と、日本飛行連盟を結成し、航空会社が始まるまで、パイロットを送り出すため訓練学校の先駆者として活躍なさいました。現在も連盟の理事でいらつしやいます。やがて、全日空や、日本航空が一段落すると、昭和36年に民間の飛行クラブを開設し、アマチュア飛行士の教官としてのお仕事に携わりました。一匹狼としての活躍が始まりました。昭和38年には、赤十字飛行隊を結成しました。隊長として、自家用機を使って、災害時には、救護などの無償奉仕などもしていらつしやいます。現在では日本全国38カ所を拠点にしており、約2百人ほどの隊員が登録されているという事です。1964年の新潟地震の折、医師や医薬品を新潟空港に運び込みました。空港は液化化現象で、滑走路はひどい状態でしたが、着陸に成功しました。こうした活躍の中、厚生大臣賞をお受けになりました。昭和42年頃からは、テスト飛行、テ

レビ、映画のためなどのお仕事もこなしていらつしやいます。まさに若いときに、思い描いていたフリーランスとしてのパイロットが実現できたわけです。

操縦もコンピューター化されている昨今ですが、体で覚え、ご自分の技や方法を発見し、磨き上げられたプロとしての意識が、高橋さんからは、ひしひしと伝わってきます。危険と背中あわせの操縦という仕事の中で、危険を察知する能力さらに先を見る力が大切だとおっしゃいます。自分の力に「自信」は持つても、「過信」してはいけません。そしてプロでも、80パーセントの力で操縦することを信条にいらつしやるとのことです。100パーセントを出そうとせずに、常に80パーセントを確実にすることだそうです。20パーセントは余力として残すこと。そこに何か起きたときの対応する能力が残される。この事は操縦に限らず、高橋さんの人生のモットーだとおっしゃいます。

まさにパイロットになるためにお生まれになられたような高橋さんですが、飛行時間2万4千余時間の長岐に渡るパイロットという仕事の中で、奥様の心配を尻目に、数え切れない飛行を通じ、沢山の方々とのお会い、沢山の後任を出せた事は幸せだとおっしゃいます。

そして若者に伝えたいことは、「夢と根性を持って。失敗しても次のことがあるのだから。」「南方で見た日の出、日の入り。飛行している下に見た南十字星。日本に着いて目に入る富士山の姿。感動的な光景に沢山出会えた。」と、語って下さった現役パイロット高橋さんの目は、まだ若者のように輝いていました。

（佐々木幸子）

広袴のお店紹介 「吉川動物病院」

広袴中央の交差点に、清潔で明るい佇まいの吉川動物病院があります。

優しさの中に冷静さを感じさせる吉川哲央先生が、取材の私達を迎えてくださいました。お父様が三十年獣医でいらっしやる環境の中で、自然と影響を受け獣医になられたとのことですが、獣医になられたきっかけを、「動物がお好きだからですね。」と、何うと、「もちろんです。しかし、動物が好きただけでは獣医にはなれません。」というお答えが返ってきました。吉川動物病院では基本的に犬と猫を扱っています。

ペットブームと言われている昨今、家庭でのペットの飼い方について、お尋ねしました。家族の一員として飼うのはよいことだが、人間と強烈にオーバーラップさせてはいけないということ。あくまでも犬は犬、猫は猫という対応の仕方が大切だということ。たとえば玉葱は犬に溶血性の貧血を起こさせるそうです。人間には良くても犬には良くない食材などもあり、食事の面からも、人間と犬は同じとはいえないとのこと。犬や猫の立場になって考えた場合、迷惑と考えられるほどの溺愛の仕方は良くないとおっしゃいます。そして躰が大切だとおっしゃいました。「かわいい、かわいいだけではいけません。」とも。血統犬にしる、雑種犬にしる、躰の仕方の良い犬に育つという



冷静に対処してくださる吉川哲央先生が、ここ広袴にいらして下さることは、犬や猫を家族の一員として飼っている方々には、本当に心強いものがあります。「動物を飼うと言う事は、その動物が生きている間、責任が伴います。散歩時の糞の始末など社会的マナーも大切です。一方的な愛情を注ぐことなく、バランスのよい愛情の掛け方をし、私達の良きパートナーとして、共に生きることが大切です。」と、締めくくって下さいました。

(佐々木幸子、大川節子)

エッセイ

広袴に住んで

海外で日本に思いを馳せたときは、不思議なもので、子供の時の美しくも懐かしい日本の情景のみがふつと浮かび上がってきたような気がする。思いもかけず20余年も海外に住んだ我々家族だが、いざ日本に帰任となった時に思い浮かべたのは、ライスカレイでもなければ、ラーメンでもない、それは、優しい山並み、梅の花、川のせせらぎ、どじょう、鮎(ふな)、おたまじやくし、落(ふき)、つくしんぼう、やなぎの木の花の芽吹いている、美しい日本の様(さま)であった。

お父さんの感じの悪い目で見たら、逆に因縁をつけられかねないから、変な事をしないでよ」と家族から言われてしまったが、広袴の緑に囲まれた環境の中で、微笑は何にも勝るのだ。

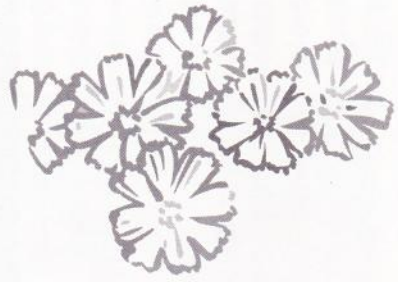
挨拶という言葉の挨拶という字には強制されるという趣もあるようであるが、英語でもスペイン語でも挨拶という単語は、健康を祈る、大声で叫ぶ、という意味あいから来ている事が多い。挨拶はやはり強制ではなく、自発的にかねば。その意味でも、西川文二さんのコミュニケーションの為の尽力は素晴らしい。

そうそう、1つだけ足りないものを上げるとしよう。広袴に酒挨拶が出来る場所が欲しいかもしれない。と、書いた途端、家族のコメンテーターから、『酒挨拶の客振の、よきも過ぎては仇となる』、という言葉もあるわよとの事。

あー、過ぎたるは及ばざるが如しか。

ならば、焦らず、じっくりと時間を掛けて、皆の力でこの町を育て上げるしかない。

(佐々木誠之介)



広袴の民生児童委員紹介

名取 潔さん 広袴3-8-5

電話734-5341

明けましておめでとうございます。広袴の皆様にはお元気で新年をお迎えの事と存じます。平成15年7月1日付で広袴の民生児童委員を委嘱されました9組B班の名取潔と申します。広袴の変化と発展を24年前に住民となって以来見て参りました。微力ではありますが、地域の安全と住みよい環境作りに向け住民の一員として努力をして参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



広袴も少子高齢化社会の到来で核家族化と高齢者世帯の増加が進み、地域構造及び生活構造が変化しております。民生児童委員の初めの活動として広袴地域の70歳以上の高齢者144世帯(168名)を戸別訪問し、町田市発行の高齢者のための福祉の手引きを配布させていただきました。

最近児童がらみの問題が急増し、町田市でも悲しい事件が起きています。これらの問題のために、鶴川地区の青少年健全育成委員会、町田市の社会を明るくする運動と

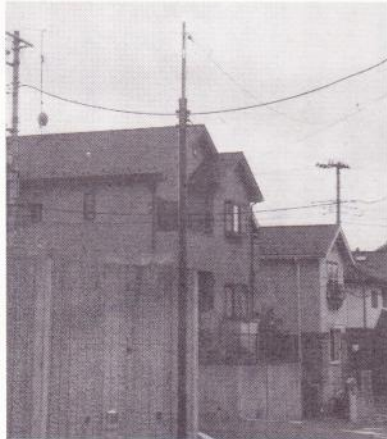
して鶴川地域懇談会に出席し、更には学校訪問をも通して、未来に羽ばたく子供達が健全に育って行くために意見交換を行っております。

今後、地域の実情に合わせた環境作り、町作りに広袴町内会、広楽会、子供会と協力して貢献して参りたいと思っております。地域の福祉及び児童の健全育成についてのご相談がございましたらお気軽にお声を掛けていただきたいと思います。

広袴3丁目 交通信号機設置について

広報部より設置の時期につき、こいそ善彦都議会議員を通して問い合わせたところ、次のような回答が寄せられました。

「平成14年の9月に町田市広袴3丁目の信号機のない交差点で男子高校生が亡くなった痛ましい交通事故が起こったのをきっかけに、地域住民を中心に信号機設置の署名運動が展開され、なんと9,346名の署名が集まり、地域の安全を訴えました。早速この署名は町田警察署長に届けられ、警察署も該当箇所の信号機設置を約束しました。」



信号設置予定地

現在、この場所には信号機のポールが立っておりませんが、横断歩道を作るために、歩道切り下げの工事完了を待っている段階であり、遅くとも平成15年度中には設置されます。」

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。前々町内会長 霧生貞造氏



略歴

大正11年7月1日 現在の相模原市橋本に生まれ、先の対戦では鉄道省の軍属として南方戦線に従軍。

昭和22年 帰還、同年吉川イマと結婚。吉川家長男、勇次郎戦死のため会社員として勤務する傍ら祖父母と共に吉川家の田畑を守り、長女あけみ、長男貞一を育てる。

昭和57年 日本飛行機(株)を定年退職。

昭和59年4月から昭和63年3月まで 広袴町内会会長。盆踊りの復活、町内会館(現在の)建設に当たる。

昭和60年 年金友の会ゲートボール部、創部より部長として活動。

平成7年4月 故吉川照正氏の後を継ぎ老人会会長(現在のみどりクラブ)となる。

平成15年12月1日 入院先で家族の見守る中永眠(享年82才)。

編集後記

広袴町内の皆様、明けましておめでとうございます。この「広袴便り」もここに第2号を発行することができました。

広袴に住む皆様方相互のコミュニケーションを豊かにするために創刊された本紙は定期的な連絡事項はできるだけ縮め、皆さんの生きた活動を中心に住み易い環境づくりの一助となるよう編集しております。

年間の町内行事は色々ありますが、この1月には早速「歳の神」(どんど焼き)があります。これこそ広袴町の祖先から連綿と受継いできた貴重な町内の遺産です。皆さんの広袴にお住いになっている期間に差異はあっても、ここに最近生まれ育ったお子さん達にとっては将来貴重な体験として共通の思い出となることでしょう。

寒い夜空に照らし出される原始の火柱は私達の今年の幸せを象徴するかのよう。広袴の野山に明るく浮かび輝くことでしょう。今年の干支は申ですが、私達編集委員も活発に広報活動します。本紙は半年に1回の発行ではありますが、掲載内容に皆さんからもご要望があれば遠慮なくご提案ください。又、投稿も大歓迎です。今年もよろしく。

次号は平成16年7月発行の予定です。(熊田)

発行日 平成16年1月1日

発行所 東京都町田市広袴町町内会

発行人 吉川俊雄

編集人 西川文二 中村一行 飯塚明子

大川節子 熊田道夫 佐々木幸子

滝口博子 小暮真弓 竹野義明

谷岡克昭 高橋 真(写真・鈴木正子)

印刷 (株)サン・メールサービス